

秋空にロックの音色響く

～ ROCK IN KAFUKA NUMBERS ～

ロックを中心とした音楽イベント「ROCK IN KAFUKA NUMBERS」が9月26日、鹿深夢の森の芝生広場で開催されました。このイベントは実行委員会が企画・運営するもので、今年で6回目。今回は、日頃かふか生涯学習館で活動している6つのバンドが出場し、さわやかな秋晴れの空の下、ステージを熱く盛り上げました。出場は2回目で、自ら作曲も手がける高校生バンド「アロエスカッシュ」のメンバーは、「ライブハウスとは違う音の響き方が気持ちよかった。今後もここで練習を重ねながらメジャーデビューをめざします」と感想を話していました。



▲日頃の練習の成果を披露するバンドのメンバー

文化と歴史が詰まった町並みを散策

～甲賀駅からはじまる歴史巡りウォーク～

草 津線全線開通120周年・電化30周年を記念した歴史巡りウォークが9月26日、JR甲賀駅を発着点に開催されました。

「甲賀駅を育てる会」が主催し、県内外から30名が参加。同会が発行したウォーキングガイド「歩こうか。」の散策コースをもとに、駅南側にある称名寺や元龍寺など5つの寺を巡りながら約4・3キロの道のりを歩きました。この日に合わせて数々の秘仏が特別公開され、メロをとりながら熱心に住職の話や話を聞く参加者もいました。



▲正覚寺で公開された秘仏を見学する参加者

薬の製法や販売用具を紹介

～甲南ふれあいの館企画展～

江戸時代から作られ始めた甲賀の薬。配置売薬によって全国に知られるようになり、今では市を代表する地場産業の一つとして発展を遂げています。甲南ふれあいの館では12月5日まで、企画展「甲賀の薬」とってお話」が開催されています。昭和20年代以前の、主に手作業で製造していた時代に焦点をあてて、薬の製法や販売用具について、知られざるエピソードを交えて紹介しています。薬の製造に使った薬研、売り歩く際に背負った行李やお土産の紙風船、ハマグリ貝殻に入った万能薬テリアカなど、訪れた人は昔ながらの展示品を懐かしそうに見入っていました。



▲足踏み式製丸機を使った丸薬の製法なども紹介されている企画展

アフリカ・ジブチで野菜栽培を支援

～青年海外協力隊 秀熊ともよさん～

青 年海外協力隊の一員として、水口町の秀熊ともよさんが9月27日、アフリカのジブチ共和国に派遣されました。

秀熊さんは、大学卒業後、農村指導者養成研修機関で1年間、国内外の研修生と共同生活しながら農作業を実習。耕作可能面積が国土のわずか1%と農業に未発達なジブチで、2年間農作物栽培の定着化に取り組みます。出発前の9月16日に市長を表敬訪問した秀熊さんは、「先輩隊員の意思を受け継いで現地の人たちと汗を流したい」と決意を述べ、中嶋市長から「食は人の生活に関わる大切な分野。農業には厳しい環境ですが、地元の人になりきって頑張ってください」と激励を受けました。



▲中嶋市長から激励を受ける秀熊さん

鶏鳴八滝が誕生 地域の新たな名所に

～神山区いい顔づくり委員会～

信 楽町神山区にある「鶏鳴の滝」の上下流にある7か所の滝の名称が決まり「鶏鳴八滝」が誕生、10月3日に案内板除幕式が行われました。

「神山区いい顔づくり委員会」が新たな名所づくりをめざして名称を募集したもので、上流から「神有の滝」「岩したれの滝」「白布の滝」「白蛇の滝」「白神の滝」「垂尾の滝」「初音の滝」と命名されました。この日は、信楽焼のたぬきのおなかに滝の名称を記した案内板を各滝近くの遊歩道に設置。また、駐車場付近には八滝の場所を示した石碑も新設されました。除幕を記念してスタンプリーも行われ、参加者は八滝巡りを楽しんでいました。



▲「鶏鳴八滝」の案内板除幕式

わらじ飛ばしなどイベント多彩に

～あいの土山宿場まつり～

あ いの土山宿場まつりが10月3日、旧東海道伝馬館前広場では、わらじを飛ばし的に入れる「東海道わらじ飛ばし大会」など多彩なイベントがステージを盛り上げました。また、同館内に設けられた「昔の遊びコーナー」では、子どもたちが万華鏡作りやお手玉などの遊びを体験しました。

街道沿いでは、民家の軒先などに骨董品を展示する「まちかど博物館」やスタンプリーなど散策型の催しのほか、宿内に今春改装オープンした扇屋伝承文化館でも地元の人たちによりすいとなんなどが振る舞われ、訪れた人は宿場の風情を満喫していました。



▲勢いよくわらじを飛ばす参加者